

「目指すべき農業のあり方」: 絞り込み

コミュニケーション
研究会

Key		目指すべきあり方の絞り込み	
		要素毎の「あり方」	目標案
農業力の強化が出来ない	農地の有効活用がでない	農地の適正管理	国内の農地は国の共有財産として最も有効に活用され得る状態に、常に公正に管理されているべきこと
		大規模農業化	農地の利用形態は農地のゾーニングを含め農産物の需給や経済性を重視した最善の方法を選択して行うべきこと
	人材が足りない	農業生活の魅力向上	自己の夢を自負を持って積極的に追及することが出来、心身共に豊かな生涯設計が約束される職場たるべきこと
		高度人材の確保	求める処を自ら見出し実現する計画を立案し推進する力の養成を図るべきこと
		自助強化	各自が他責を排して自ら問題解決が出来る見識と実行力を持つべきこと
	農業技術の問題	革新意欲の増進	経験や勘頼りを排し、進取の気概を横溢させて現状の問題点を科学的思考をもって解決して行く英知と情熱が溢れる風土を醸成せしめていくべきこと
		自然環境との調和	近視的な見方を排し、総合的な視野のもとに永続的に豊かさを齎す在り方が理解できる英知と技術を育むべきこと
	施策の問題	米の重圧	農民が自らの立地、環境に適した自立可能な農業形態を選定し構築し得る施策を提供すべきこと
		競争原理からの逃避	閉塞的な環境や短絡的な利害調整など、農民の工夫や意欲を削ぎ他力本願を助長する施策を排し、自らの意欲と努力で競争力のある農業に回帰させる施策が採られるべきこと
		基幹産業化に向けての行政不在	国民の不可欠の要素担う負担事業としてではなく、農業を国益を踏まえた競争力のあるビジネスとして認識し強化していくべき基幹産業に位置付けて、育成していくべきこと
	農業協同関係問題	軛よりの解放	農民各自が生産から消費までの農業運営を総合的に理解し、最も合理的と思う方法を自由に選定し実践できる運営基盤を関係者は一致して構築すべきこと
		経営力の確保	農業の収益性向上の活動が伸びやかに展開されていく運営環境・基盤の整備を積極的に支援・推進できる知識と能力を農業関係者に習得させるべきこと
	農村の行動パターン	無気力行動	国内のみならず国際市場にも通用する市場競争力を独自性、独創性、勤勉性等を農民、農村が一致して発揮していく自助自立の精神の涵養に努めるべきこと
		保守的行動	社会の情勢変化に即し温故知新、将来を見据えた賢明な判断、行動ができる能力を身に着けた農村・農民であるべきこと
	力価競争の問題	成り行き行動	消極的な対応に陥らず、自らを反省し、優位性を見出し、強化して他を凌駕する価格競争力を一致して獲得していく場として農村を位置づけるべきこと

「目指すべき農業の在り方」の検討

Key	Commentary(目指すべき目標に向けての道を阻む逆風)	目指すべき在り方
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">農業力の強化が出来ない</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">農地の適正管理</p>	<p>農地が転用、耕作放棄などで有効活用されていない → 農業委の運営が独断的で明朗・公平でない</p> <p>農地が有効活用されない → 農地管理の全権限が自治体に移譲されていない</p> <p>農地の有効活用を維持促進する施策が不備 - 撤退時の公的機関への返還義務 - 小規模個人所有農地への相続税強化 - 大規模農業法人の農地取得優遇と使用の義務化 - 農地への課税優遇と目的外使用への課税強化</p> <p>農地の活用仕分け(ゾーニング)が出来ていない</p> <p>農地の管理体制が未整備 - 耕作放棄地の把握システムがない - 公的機関による耕作放棄地の強制買上げ、公有地化 - 農業地区での他事業が禁止できない</p> <p>自由な発想で効率的な土地利用ができない → 法的規制が有効に活用されていない</p> <p>農地の効率活用が図れない → 不法転売利得を目論む農地の排除ができない</p> <p>→ 利権化を防ぐ公正な農地の管理規制がない</p>	<p>国内の農地は 国の共有財産として 最も有効に活用され得る 状態に、常に公正に管理 されているべきこと</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">農業力の強化が出来ない</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">大規模農業化</p>	<p>大規模農耕が採用し難い → 農地の細分散化が改善されない</p> <p>機械化が図れない → 農地が狭く投資効果が少ない</p> <p>実際に農業に携わる農士の農地拡大が出来ない → 偽装農家の存在が農地の流通を阻害している</p> <p>→ 農地の利用権と所有権が区別されていない</p> <p>農地面積が狭い → 海外での農地確保が進んでいない → 農民が小作的土地密着文化から脱却できない</p> <p>農地面積が狭い → Vertical Farm が普及していない → 技術開発が進んでいない</p> <p>大規模化ができない → 小規模農家が農地を手放さない</p> <p>→ 優遇税制等で生産性が低くても負担にならない</p> <p>大規模農業化が進まない → 兼業農家が専業農家に農地を貸し出さない</p> <p>農地の拡大が出来ない → ビル型農業の可能性が具体的追及されていない → パイロットプラントによる試行が行われない</p>	<p>農地の利用形態は 農地のゾーニングを含め 農産物の需給や経済性を 重視した最善の方法を選 択して行うべきこと</p>

農業力の強化が出来ない	人材が足りない	農業生活の魅力度向上	<p>人が集まらない → 農業従事者の生活環境が悪い → 所得保障制度が充実していない</p> <p>事業経営人材が足りない → 人が農業に来ない</p> <p>→ 農業について夢と希望を伝えていない - 農業生活の実態紹介努力 - 生活できる現場であることの紹介 - 結婚、持ち家等、将来設計が可能な環境整備</p> <p>→ 事業経営人材が育成されていない - 農業高校、農業大学の増設 - 近代的農業経営の学習 - 「農業資格」認定制度の改定 - 実務教育に農家人材が活用 - パイロット事業による経営研修</p> <p>若者が集まらない → 農業は若者に魅力がない → 労働時間が長く休みが取れない</p> <p>若者が集まらない → 生産者の所得が安い → 流通、販売等でのマージンがかさむ → 自由に販売活動が選択できない</p> <p>専業農家になり手がいない → 兼業に比べ専業農家は自由度、所得面で不利</p> <p>専業農家が少ない → 専業農家に対する優遇策が出来ていない → 一意専心、農業力強化に取り組む施策が弱い</p> <p>新たな担い手が育たない → 担い手の世代交代が進まない → 農地の管理者と耕作者が同じでないと世代交代が許されない</p> <p>定職としての魅力がない → 収入が安定しない → 天候による収入の変動を抑えにくい</p>	<p>自己の夢を自負を持って積極的に追及することが出来、心身共に豊かな生涯設計が約束される職場たるべきこと</p>
		高度人材の確保	<p>農業戦略が構築できない → 立案できる人材がいない → 人材の教育、育成がなされていない</p> <p>大規模農業法人への育成支援が少ない → 運営面での支援 - 地方自治体の人材不足の解消 - 研究成果の公開</p> <p>技術力の向上支援 - 収穫量増加技術の開発 - 公立機関の品種改良研究</p> <p>時代の変化に順応した変身経営ができない → 経営に得意な人が農業経営を担当していない</p> <p>農業全体を大きく飛躍させることが出来ない → 経営が得意な人材の農業参入が難しい</p> <p>多様な農法の農業力の総合化が出来ない → フランチャイズ化等の対策を進める人材がいない</p>	<p>求める処を自ら見出し実現する計画を立案し推進する力の養成を図るべきこと</p>
		自助強化	<p>対策が決まらず、決まっても利害絡みの曖昧な決定しかできない → 本当に実力のある人間が権限を持っていない</p> <p>国には農業問題を解決する能力がない → 農業問題に関する真のエキスパートがいない → 農業問題のエキスパートを育てていない</p> <p>農業力の強化に取り組む政治家がいない → 政治屋はいても政治家がいない → 選挙に負ける政治家では生活ができない</p>	<p>各自が他責を排して自ら問題解決が出来る見識と実行力を持つべきこと</p>

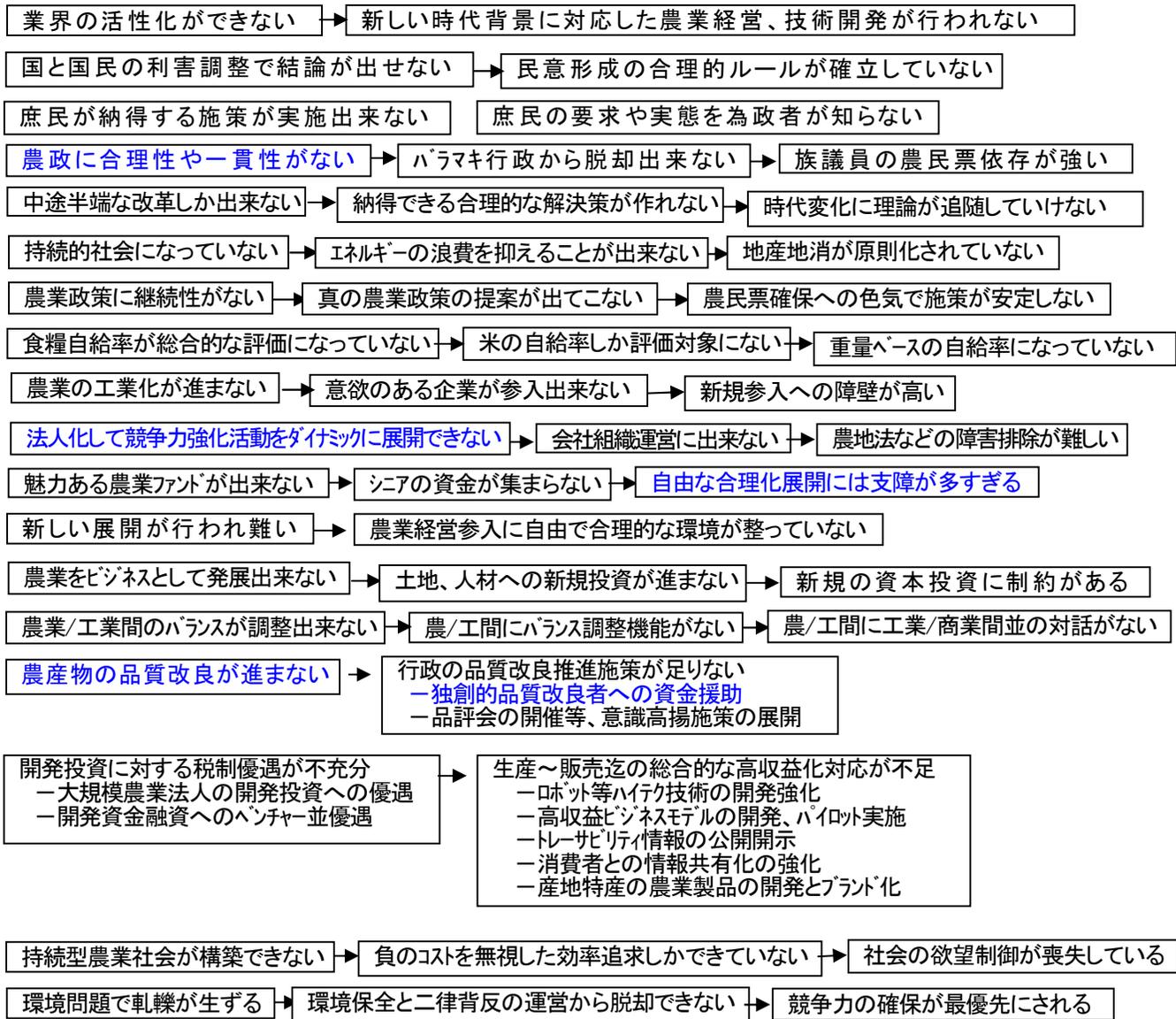
農業力の強化が出来ない	革新意欲の増進	<p>新しい栽培法、作物にトライ出来ない → 開発資金、品種改良等の提供機関と連携が出来ていない</p> <p>新技術開発のスピードが遅い → 農業分野では科学的思考の導入が遅れている</p> <p>新しい試みがなされ難い → 経験や勘頼りの運営になっている → 科学的に解明されていないことが多い</p> <p>改良法への転換リスクが大きい → 改良法の成果が短期に確認出来ない → 農業経営では自然に左右され易い</p> <p>技術革新が進まない → 技術革新が出来る程に技術力が育っていない(他分野の最新技術導入もそれ以前の段階)</p> <p>既存技術依存から抜け出せない → 新技術はリスク大と見られ導入されない → 作物の病気治療等のリスク対策技術が未熟</p> <p>生産が安定しない → 生産の管理が難しい → 自然環境が一定しない</p> <p>遺伝子組み換え技術の導入対応が甘い → 世界の技術に追いつけない → 新技術導入の客観的評価や体制準備がない</p> <p>農業技術では問題の真の原因、対策が見え難い → ミクロの内部プロセスが見え難い → 技術的解決力の向上が足りない</p> <p>世代間でノウハウの伝達が難しい → 技術ノウハウが目に見える形になっていない → ノハウの知的所有権化が図られていない</p> <p>問題への対策効果がいつまでも上がらない → 曖昧・単発的対策では解決出来ない → 現今の問題点は複合的で複雑</p> <p>畜産業の強化が出来ない → 温暖化問題が発生(食肉の生産は環境負荷大) → 環境負荷を下げた食肉増産は出来ない</p>	<p>経験や勘頼りを排し、進取の気概を横溢させて現状の問題点を科学的思考をもって解決して行く英知と情熱が溢れる風土を醸成せしめていくべきこと</p>
	自然環境との調和	<p>畜産事業の収益基盤が不安定 → 疫病被害への対応力が弱い → 疫病リスクに対する救済策が不十分 → リスク・被害に対処できる人材の養成 → クライスマネジメントのできる人材 → リスクマネジメントのできる人材 → 疑惑の早期通報奨励制度の設置 → 防止策投資への優遇策 → ワクチン、予防策の開発 → 風評予防へ消費者と情報共有</p> <p>化学肥料や農薬を安易に使用する → 作物残渣等の自然物を利用しない → 環境保全が出来ない(無駄の上に無駄)</p> <p>持続可能な農業が実現できない → 多様性と共存出来ない(モカルチャー) → 農業の運営を効率性だけでしか捉えていない</p> <p>現代の農業力では環境破壊が起こる → 再生できる水が増やせない → 排水に化学肥料や農薬が含まれてくる</p> <p>自然のバランスについての学習が不十分 → 自然のバランス絶妙・多様で難解</p> <p>環境が保全出来ない → 化学肥料や農薬なしでは増産ができない → 食糧安保が達成できない</p> <p>環境保全との対立なしの農業拡大に懸念あり → 環境と持続的に共存する農業技術がない → 人類の将来が危うい</p>	<p>近視的な見方を排し、総合的な視野のもとに永続的に豊かさを齎す在り方が理解できる英知と技術を育むべきこと</p>

農業力の強化が出来ない 施策の問題 競争原理からの逃避	<p>米の重症</p> <p>高付加価値農産物に移行できない → 米以外の農産物は国の手当てが薄い</p> <p>米余りで米の生産性向上が図れない → 米の消費拡大方が検討されていない</p> <p>海外レベル並の大規模化は出来ない → 海外との競争に勝てる訳はない → 米の大規模化しか念頭にない</p> <p>民間技術が充分活用されない - 有機栽培、乾田直蒔方式、水耕栽培等 - 腐葉土の活用等、林業との連携共存 → 政府や農協は米以外の農業に関心がない</p>	<p>農民が自らの立地、環境に適した自立可能な農業形態を選定し構築し得る施策を提供すべきこと</p>
	<p>適正な農政運営がなされていない → 農業族議員のために公正な農政運営ができない → 小選挙区制が農業族議員輩出を助長している</p> <p>競争力のある農業が育たない → コスト削減に対する意欲と努力が不足 - 企業の農業事業研究開発努力が不十分 - 公的機関の指導力が不足 → 公平な優遇/保護策のもとで行われる活動の前提となる競争原理が損耗している</p> <p>新農業を実現する為の諸施策が遅々として進まない ①農地のゾーニング ②事業経営人材の確保 ③大規模農業法人の育成 ④マーケット開発力の強化 ⑤農業力強化のための技術開発、税制優遇 ⑥公平な競争市場の確立 → 課題解決には多くの事情が絡むので難しい (更地での試行機会が得られない) 東北大震災(=更地での試行機会)の話は 農業力の強化が出来るの話として別途考慮</p> <p>気候変動、災害などで所得が安定しない → 救済の仕組みが出来ていない</p> <p>生産性が向上しない → 補助金なしでは開発投資ができない → 黒字をだと農業法人は補助金がもらえない</p> <p>官僚が育っていない(…理念で動く官僚がいない) → 理念でなく利害で動く政治家しかいない</p> <p>農地と都市住宅地の全体配分が不適正 → 法律が機能していない → 農業関係者の利害だけで法が運用される</p> <p>都市と農村がバランスよく発展できていない → 都市と農村間の利害調整機能がない</p> <p>規模拡大が進まない → 農政関係者の課題解決力が足りない(20年以上続けても集落営農化が出来ない)</p> <p>専業農家が増加しない → 土地持ち非農家が利益を横取りしている</p> <p>日本の農業、農村が立ち行かなくなる → 集落の担い手の専業農家が居なくなる → 専業農家を育成する施策が弱い</p>	<p>閉塞的な環境や短絡的な利害調整など、農民の工夫や意欲を削ぎ他力本願を助長する施策を排し、自らの意欲と努力で競争力のある農業に回帰させる施策が採られるべきこと</p>

農業力の強化が出来ない

施策の問題

基幹産業化に向けての行政不在



国民の不可欠の要素担う負担事業として捉えるのではなく、農業を国益を踏まえた競争力のあるビジネスとして認識し強化していくべき基幹産業に位置付けて、育成していくべきこと

農業力の強化が出来ない	農協関係と事業運営問題	<p>農協では他の組合との連携が出来ない? → 農協の運営には公平性、多様性がない → 農協は自主的発足ながら本来の組合組織とはかけ離れている</p> <p>農村、農業が時代のニーズに着いていけない → 農協が多様化を促進しない</p> <p>農協の運営が調和的でない → 専業農家と兼業農家の利害が異なる → 専業農家だけの組合が分離独立していない</p> <p>農協に合理化助勢の余力がない → 農協の事業展開が広範 → 自己増殖した農協の整理が出来ていない (会員資格の限定、農業関係以外の事業の切り離し)</p> <p>販売・物流の一元管理が自由に出来ない → 農協が自由な対応を許さない</p> <p>農産物の物流コストが割高 → 生産者/消費者の共同生産・購入体制がない → 独自の流通業者の導入ができない → 農協の呪縛で傘下から脱出できない</p> <p>農産物の需要が不安定 → 農産物の安定的な供給先がない → スーパー等との提携が積極的に図られていない → 営業販売を農協が仕切っている</p>	<p>農民各自が生産から消費までの農業運営を総合的に理解し、最も合理的と思う方法を自由に選定し実践できる運営基盤を関係者は一致して構築すべきこと</p>
	経営力の確保	<p>工業化が難しい → 要員確保が難しい → 所要労力の配分計画が一定に出来ない</p> <p>農業経営は誰にもできる程簡単ではない → 企業経営ノウハウはそのまま使えない → 経営的に管理し難い変数が多い</p> <p>産品の安定的な需給体制が未確立 → 農家と住民の間で共栄体制が未確立 → 特化・ブランド化等の魅力度アップが不十分</p> <p>加工・運輸等との有利な連携体制が未確立 → 農業分野でファンドや合同会社の設立は困難 → 農民の経営能力不足?</p> <p>高価格で輸出競争力がない → 味や品質、安全・安心の優位性を考え、価格だけを競争力と誤解 → 価格以外の長所で差別化した 拡販努力が不足</p> <p>新展開の機会が少ない → 異業種の参入ができない → 他業界との自由な協働が制限されている</p> <p>農産物の流通・販売先が多角化できない → 農協支配が強く自由な選択が出来ない</p> <p>農産物が需給に即して生産出来ていない → 米以外の販路が未確立 → 地産地消体制の確立が未達</p>	<p>農業の収益性向上の活動が伸びやかに展開されていく運営環境・基盤の整備を積極的に支援・推進できる知識と能力を農業関係者に習得させるべきこと</p>

農業力の強化が出来ない	農村の行動パターン	<p>自助自立の精神が失われている → 補助金行政に毒されている</p> <p>生産性向上への意欲がない → 創造的思考が薄れてしまった → お上や農協への安易な依存習慣が改善されない</p> <p>海外進出の発想が生まれにくい → 自作耕地への執着から脱却できない</p> <p>運営に市場原理が働いていない → 補助金、高関税政策等で農民の市場原理意識が喪失</p> <p>海外市場が眼中にない → 発想が閉塞的で農産物輸出への意欲がない</p> <p>脱農協が進まない → 他責で過ごせる農協への信頼? が厚い → 巧妙な農協の懐柔で農民の自助意欲が消滅</p> <p>有利な販売活動ができない → マーケットインの思考が欠落 → 安易な委託販売依存が習慣化</p>	国内のみならず国際市場にも通用する市場競争力を独自性、独創性、勤勉性等を農民、農村が一致して発揮していく自助自立の精神の涵養に努めるべきこと
	保守的行動	<p>農業の持続性が怪しくなっている → 自然とのバランスが保たれなくなっている → 化学肥料、農薬の多用が止まない</p> <p>持続的な農業にすることができない → 有限資源の使用量の削減ができない → リン、水が手に入らなくなる</p> <p>新規参入ができにくい → 転売利益を期待し農家が農地を売らない → 転売待ち禁止の農地管理規制になっていない</p>	社会の情勢変化に即し温故知新、将来を見据えた賢明な判断、行動ができる能力を身に着けた農村・農民であるべきこと
	成り行き行動	<p>農作物の差別化、市場の拡大が進まない → 運営に市場原理が働いていない</p> <p>価格競争力の持続的維持ができない → 多品種少量生産の拡大が出来ない</p> <p>コスト低減意欲が弱い → 行政が安価な海外農産物の流入を許さない</p> <p>農産物の国際評価の向上努力が不足 ー放射線汚染の風評の拡大阻止 ー安全・安心・高級感の売り込み ー高級野菜、果物等の品揃え、増産 → マーケット開発力が不足 → 地方自治体に人材がいない ー国際ビジネスが行える人材 ー英語・中国語ができる農業実務人材</p> <p>消費者からの無益な要求が多い → 農業や農産物に対する消費者の知識不足 → 消費者への農業教育機会が不足</p>	消極的な対策に陥らず、自らを反省し、優位性を見出し、強化して他を凌駕する価格競争力を一致して獲得していく場として農村を位置づけるべきこと

< 参加研究員 >

柏木 寛

小泉 鐵夫

佐立 弘臣

玉木 悠二

長本 啓壮

平田 健二

松井 潤吉

山本 義行